

平成26年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成26年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 サメガレイ

学名 *Clidoderma asperrimum*

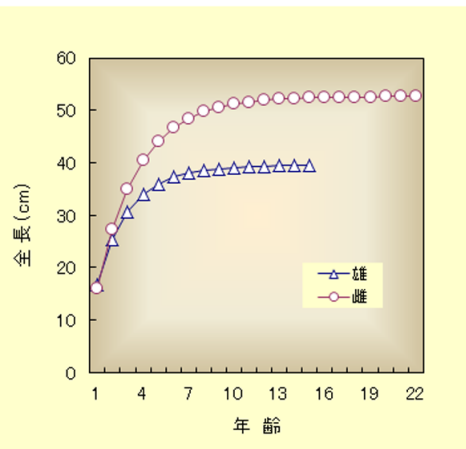
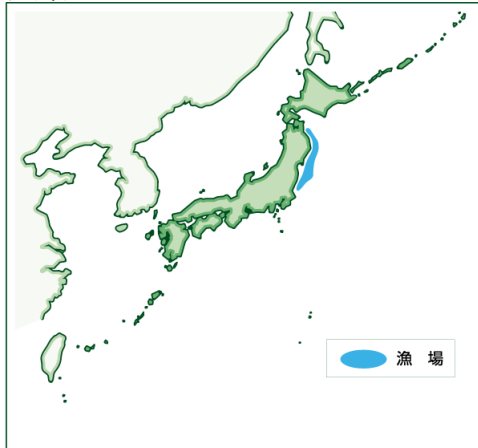
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄15歳、雌22歳
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 1～2月、水深600～900mの深海域
索餌期・索餌場: 周年
食性: クモヒトデ類
捕食者: 不明

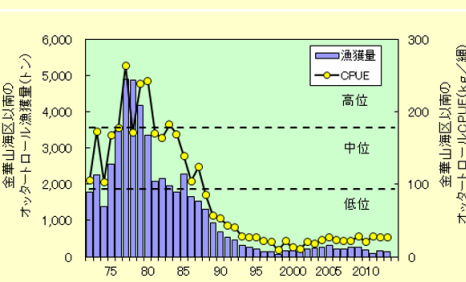
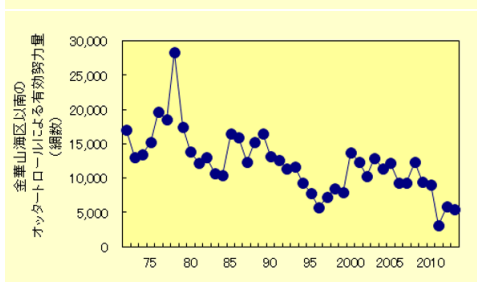
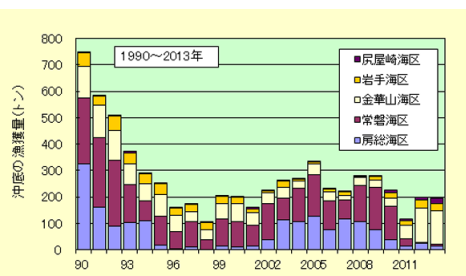
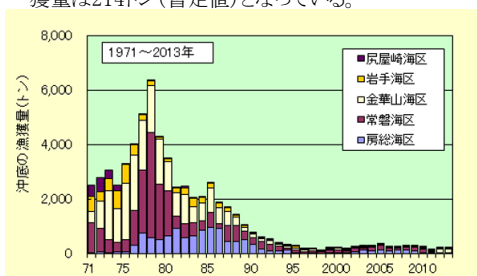


漁業の特徴

太平洋北部では、サメガレイは主に沖合底びき網漁業(沖底)により漁獲されており、他の漁業種類による漁獲量は極めて少ない。沖底の海区域別漁獲量をみると、金華山・常磐・房総海区(宮城～茨城県沖合)での漁獲が大部分を占めている。震災後には、常磐・房総海区の漁獲量が減少し、金華山海区中心に漁獲が行われている。宮城県では、2月前後の産卵期に水揚げが集中していることから、産卵親魚に対する漁獲圧が高いと考えられている。

漁獲の動向

沖底による漁獲量は、1978年の6,329トンピークに減少を続け、1998年には最低水準の108トン記録した。その後、やや増加し、2006～2010年は200トン台で推移した。2011年には東日本大震災の影響で漁獲量は減少したが、2012～2013年には金華山海区での漁獲量の増加により200トン程度まで回復した。2013年の全漁業種類合計の漁獲量は214トン(暫定値)となっている。



資源評価法

トロール調査による採集個体数は少なく、本調査によって十分な精度の資源量推定値を得ることは困難である。そのため、漁獲量に加え、沖底の主要な漁場である金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)のCPUEの推移により資源評価を行った。

資源状態

沖底によるサメガレイのCPUEは低い水準で推移しており、資源状態は低位と判断した。過去5年のCPUEの推移から、資源動向は横ばい傾向と判断した。

管理方策

産卵期に集中的に漁獲されることから、産卵親魚を保護して資源量を増加させることが必要である。そこで、親魚量の確保を資源管理目標とした。平成26年度ABC算定のための基本規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot Ct \cdot \gamma 1$ 、 $ABC_{target} = ABC_{limit} \cdot \alpha$ で計算した。 $\gamma 1$ は、 $\gamma 1 = 1 + k(b/l)$ で計算し、 k は係数(標準値の1.0)、 b と l はCPUEの傾きと平均値(直近3年間)である。なお、 Ct には過去3年の平均値 $Cave$ (2010～2013年、ただし漁獲量が減少した2011年を除く)を用い、 $\delta 1$ は $Cave$ を用いる場合の低位水準の推奨値である0.7とした。

	2015年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABC _{limit}	160トン	$0.7 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot 0.97$	—	—
ABC _{target}	130トン	$0.8 \cdot 0.7 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot 0.97$	—	—

- Cave3-yrは2010年および2012～2013年の平均
- ABCは1トンの位を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、資源動向は横ばい
- 漁獲が産卵親魚に集中している

管理方策のまとめ

- 産卵親魚の確保が必要
- サメガレイが産卵のために集群している場所での操業自粛が必要

執筆者:服部 努・伊藤正木・成松庸二・柴田泰宙・永尾次郎

資源評価は毎年更新されます。

